岐阜農林事務所の普及活動状況　令和４年２月 28 日現在

今月の重点活動

■岐阜農林高等学校　農業者による出前講座開催

【講義風景】

２月 18 日に岐阜農林高等学校において、本巣市の若手水稲農家と瑞穂市の若手柿農家が、流通科学科２年の生徒 40 名に対して講義を行った。当日は、新型コロナの「まん延防止等重点措置」のため、講師と生徒が別教室に分かれ、オンラインで講義を実施した。

水稲農家は「私が思う農業の魅力」、柿農家は「農業ど素人の挑戦」というテーマで、それぞれ農業を始めた経緯や魅力を語った。身内が水稲、ぶどう農家である生徒からは、農業経営に関する質問もあり、生徒らは農業への関心を示していた。

農業普及課からは、卒業後の進路の一つとして、岐阜県農業大学校、岐阜県立国際園芸アカデミーの紹介を行った。

次年度も農林高校生に農業の魅力が伝わるよう継続して出前講座を開催していく。

（地域支援第一係・山田和彦）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■スマート農業　スマート農業実証成果検討会にて取組発表

【Web 発表の様子】

２月７～８日に岐阜県主催でスマート農業実証成果発表会が Web 形式で行われた。当日はスマート農業に関心のある農業者、県関係機関職員、ＪＡ職員など 105 名が参加した。岐阜地域からは、瑞穂市の（農）巣南営農組合が令和元年～２年に「スマート農業実証プロジェクト事業」で取組んだ「輸出用米生産におけるスマート農業技術の実証」の成果として、麦跡に輸出用米を作付した結果、法人収入が増加したこと、スマート農業機械の導入が２名の女性オペレーター育成に繋がったことなどを農業普及課が報告した。これに対し参加者からは水田１筆の面積とスマート農業機械の作業性や大区画化に向けた注意事項について質問が出されるなど活発な議論がなされた。

今後農業普及課ではスマート農業技術に関して各種データの蓄積や情報提供を行い、スマート農業技術の普及を推進する。

（地域支援第三係・松本政行）

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■朝市・直売所　朝市連合総会及び魅力ある直売所づくり研修会開催

【Web 会議の様子】

２月 22 日に県の朝市連合総会及び研修会が行われた。研修会には岐阜地域から天湖森農産物直売所生産者出荷組合の組合長やＪＡぎふのおんさい広場関係者等８名が参加した。

研修会では、株式会社食農夢創の代表取締役から「これからの直売所のあり方について」という演題で、日本農業の現状からマーケティング、６次産業化等について講演され、たいへん参考となる内容であった。

事例発表は、ＪＡめぐみのと中部学院大学短期大学部がコラボした地元農家応援プロジェクト「大学生と連携した直売所づくり」で、ＪＡと大学が連携して、農家を取材した宣伝動画や農産物を使ったレシピ集を作成した内容で、実際に取り組んだ学生の感想発表もあり、興味深い内容であった。

昨年に引き続き web 会議となったが、今回の内容を各朝市に周知し、活性化に向けて支援していく。

（地域支援第二係・野口裕史）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■にんじん　べたがけ栽培による省力化技術の実証

各務原市の春夏にんじんは12～３月にかけて播種される。冬場に播種されるため、播種から４月まではビニールをかけてトンネル栽培する。しかし、トンネル栽培は、ビニールを掛ける作業や換気作業に時間も労力もかかるため、規模拡大を妨げる要因の一つとなっている。

農業普及課ではＪＡぎふやにんじん部会と連携し、作業の省力化を図るため、不織布を直に掛けるべたがけ栽培の導入について昨年から検討を行っている。さらに品種や播種期などについても試験を行い、省力化に向けて技術普及を図る。

【べたがけ栽培実証（中央）】

（地域支援第二係・水川誠）

■えだまめ　令和４年産栽培開始

ＪＡぎふえだまめ部会では、１月25日から令和４年産えだまめの播種が始まり、２月４日からハウス栽培の定植が行われている。初出荷は４月中下旬を見込んでおり、ベトコン（中型ハウス）、トンネル、露地栽培と順次作型をリレーすることで、４月下旬から11月中旬まで長期出荷を予定している。定植した苗は順調に生育しており、農業普及課では、今後も関係機関と連携して安定生産のための支援を行う。

【播種作業の様子】

（園芸産地支援第一係・岡田　隆史）

■いちご　華かがりほ場審査の実施

２月３日、岐阜市、本巣市で県育成品種「華かがり」を栽培する６ほ場で県関係機関とともにほ場審査を行った。これは品質や栽培技術の高位平準化を目的に本年から開始したもので、前年 12 月下旬の審査から厳寒期を経過した後の草勢や着果状況、花房の連続性、病害虫発生状況、ほ場管理等の 10 項目について数値化し、その結果を各生産者に報告して、栽培技術向上につなげる取り組みである。

今作の「華かがり」は生育が良好な圃場が多いものの、腋花房の出蕾が遅れ、現在までの収量はやや少ない状況となっている。今後も生産者、関係機関と連携して「華かがり」の高品質安定生産に向けた活動を行っていく。

【ほ場巡回の様子】

（園芸産地支援第二係・菊井裕人　若原浩司）